

わたし。

勉強や部活動に励む置高生と彼らを見守り指導する先生、それぞれが過ごす置戸高校の日々。4人の声をお届けします。

■福祉はどんな社会でも必要とされる。



さとう ゆかり
佐藤 由香里さん

福祉教員 1年副担
ボランティア部顧問

置戸高校に入学した生徒は、介護福祉士国家試験に合格することが目標です。しかし、私たちが教えることは、勉強だけではありません。介護福祉士は、知識や技術だけではなく、「心」が必要な職業です。そのためには、利用者さんに対しての気持ちや自分で気がついて自ら動くことが必

要です。1年生の実習では、利用者さんとゲームや会話を通してコミュニケーションを学び、介護技術は1年生後半から行っています。3年間の実習の中で、生徒たちは大きく成長します。その姿を見られることが、教員にとって嬉しいことですね。

実習先の福祉の現場から生徒たちは多くのことを学びます。施設の食事から管理栄養士に興味をもち、進学した生徒もいます。将来の進路は、ひとつではありません。福祉を学んだ人は、どんな社会でも必要とされています。

置戸高校では、充実した設備と町の支援で生徒一人ひとりに対して手厚い指導ができます。勉強での頑張りはもちろんですが、夏まつりなど地域の行事に係わることで、町にお礼ができればと思います。

■生徒に寄り添い、身近な存在として支えたい。



たかはし けんた
高橋 健太さん

地歴公民 情報教員
2年担任
バレーボール部顧問

置戸高校に着任してから3年目になります。置戸高校の生徒は、目的意識を持ち、頑張る真面目で素直な生徒達です。大変なことも多く、ためこんでしまう生徒もいると思うので、私の受け持つ地歴公民科の授業で良い意味でのガス抜きができるように、できるだけ楽しい授業を心がけてい

ます。また、チーム学校として福祉科の教員と連携し、置戸高校を支えていけるよう努めています。

置高の部活動は、少人数で限られた時間の中で活動しており、勉強と部活動を両立することは大変なことです。しかし、部活動を通して得るものは多く、3年間継続できれば、大きな達成感や成果を得ることができます。

高校生活は、人生を選択する大切な時期。私は生徒が気軽に話せる身近な存在になれるよう、学年を問わず、声をかけて生徒の話に耳を傾けるように心がけています。生徒達が大人になっていく過程で、彼ら彼女らのプラスとなれるように今後も寄り添い、指導をしていながら、共に成長していきたいと思っています。

置戸高校と
おけと。

図書館やファミリースポーツセンターは、勉強やスポーツに学生も活用できる町の施設です。夏まつりや昨年度の防災フェスなど、まちのイベントに置高生も参加協力しています。置高生の若い力は、まちの活力に繋がっています。